

資料館だより

発行所

高松宮記念ハンセン病資料館
〒189 東京都東村山市青葉町4-1-13
電話 0423-96-2909
FAX 0423-96-2981
郵便振込 00130-7-764159
高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

韓何雲の詩像を絵画に

資料館では稲葉明雄先生（翻訳家）のご紹介で、十月一日より十一月十七日まで館内研修展示室において『趙昌源絵画展－小鹿島の光と影』を開催している。

趙先生は韓国ソウル大学医学部を卒業。一九六一年（第一次）と、一九七〇年（第二次）の延十年間、小鹿島病院の院長として活躍されてきた方で



旅愁・小鹿島から定着村に行く

趙昌源絵画展 －小鹿島の光と影－

患者のサツ

カーチームを
出場させたり、

患者の子供た

ちを自分の戸籍に入れ、社

会から差別されないように
配慮もした。また社会復帰の足がかり
を求めて、対岸のオマド湾
を干拓し三三〇万坪の新し工事中は折角つくった堤
防が台風によつて壊された
り、事故による死者が出た
つたが、趙院長の身を挺して
の誠意と人間愛が通じて
完成したものである。

その間、知り合つた著名な「癡詩人」韓河雲氏に大きな影響を受け、その詩像をモチーフに小鹿島や患者たちの油絵を次々と画いた。今回展示される五十点の作品は全て資料館に寄贈されることになり、趙先生に深く感謝している。

なお、十月一日の絵画展オープニングには、趙先生ご夫婦とともに、オマド干拓園として参加した当時の日本人らも来館し、趙先生と旧交をあたためた。

い土地をつくるという、小

鹿島八十年の歴史の中でも

をかけて、菌陰性の入院者

と、日本、アメリカなどか

らのボランティアなどによつて遂に成しとげた。

商工会がフェスティバル

資料館も2日間で656人

今年は全生園で「サマーフェスティバル」を開催した。多摩研通りの桜並木の下に舞台が作られ、和太鼓やお琴の各競演、プロによる歌

東村山市商工会が「らい予防法」廃止を記念し、「一層の理解と交流を」と8月24、25の両日、

謡ショーやカラオケ大会や民謡をはじめ、チビッ子広場のミステリー館やボニー

乗馬や木工細工、更に模擬店も沢山出、これを「朝日」が大きく扱つたことも影響して見に来れた」となった。

「あっちへ来たら、凄くいいからつていわれて見に来た」とか「踊りに來たけど、見たら涙が出た。もつと時間を持つて、また見に来ます」等々、二日間で資料館に寄つて行つた市民は六百五十六人



大阪H.I.V.と 研修交流会

資料館では毎年、精神、難病、H.I.V.の方々と交流会を重ねてきたが、今年は大阪H.I.V.グループ（屋舗恭一さん外）九名の合宿研修会が行われた。八月三十日は、福祉会館において午

後二時から「ハンセン病患者として生きて」＝講師・平沢保治さん。「ハンセン、H.I.V.、精神障害差別の強い患者とかかわって」＝講師・大谷藤郎先生の話を聞

かれた。

その後五時からは自治会関係者、資料館関係者も加わり、夕食と交流会がもたらされた。一日、資料館にこられた大阪H.I.V.グループの方は「自分たちも資料館をつくりたいと思っており大変参考になつた」と語つておられた。

八月二十五日・名古屋市愛知県ガンセンターにおいて国立多摩研究所主催による「ハンセン病の疫学に関するシンポジウム」が開催された。この会議にはハンセン病関係の多くの医師とともに、I.D.E.A.（共生・尊厳・経済向上をはかる国際会議）のR.K.ゴパール会長（インド）、会員のホセ・ラミレスさん（アメリカ）と、ベトナムのハンセン病対策の責任者であるハノイ医科大学のレ・キン・ドウエ教授、全療協の神事務局長、全生園自治会より三名（森元・平沢・天野）が参加した。

六月二十三日に全生園コミニティセンターで開催された資料館三周年記念シンポジウム「これからどう生きるか」のブックレットNo.4は、十月末に皓星社から発行される予定です。

なお、この本には資料館三周年記念募集評論「らい予防法廃止について」の入选三編も、一緒に掲載され

ハンセン病疫学会

回復者三人が訴え

の三氏は、それぞれ自国のハンセン病対策の実情を訴え、参加者に感動をあたえた。

シンポジウム ブックレット

十月末に発行予定

IDEA一行全生園へ

国際的な連帯を訴える

ハンセン病の疫学に関するシンポジウムに参加した

一行五人は、八月二十七日

二十八日に長島愛生園、邑

久光明園、大島青松園を訪

問、二十九日は多磨全生園

を訪れた。一行は多摩研究

所、資料館、全生園を見学

の後、三十日午後五時より

コミュニティセンターにお

いて、自治会役職員、施設

八役等計四十一名で歓迎懇

親会を行なった。

ペトナムのドゥエ教授や回復者で働きながら活躍しておられるインドのコパールさん、アメリカのラミレスさんは、自国のハンセン病事情を説明しながら、偏見差別をなくし、患者や回復者の自立をはかるため、国際的なネットワークづくりの必要性を訴えた。

資料館の入館者は八月八日、四人連れて来館された東村山市本町の樋口美穂子さんで三万人に達し、成田

で社会復帰者に関する第一回国際会議を開催、中国・

インド・韓国・ブラジル・アメリカ・イギリスなど八

か月、今年九月十六日から十九日まで、南スペ

イン・パレスチナ地方で「世

界のハンセン病療養所入園

者とその将来を考える」をテーマに第二回国際会議が開かれる。

IDEA(アイデア)

共生・尊厳・経済的向上のための国際協議会

九月結成。非政府組織。

今年三月二十五日から三十日まで、中国広州市

カ国から八十人が参加、広州宣言が出された。(未加盟の日本からはオブザーバー

入館者3万人に団体客ふえる



ハンセン病学会パンフ作成と要請

今年四月、らい予防法が廃止されたことを受けて、

日本らい学会は「日本ハン

セン病学会」と名稱を変更

したが、さらに学会内に社

会啓発委員会(中島弘委員長)を設けた。

八月二十六日、中島委員長と、成田稔学会庶務幹事

は、全国ハンセン病療養所所在市町連絡協議会(会長

II細剤一男東村山市長)を

訪ずれ、学校教育の場でのハンセン病の正しい理解を求める要請書を提出した。

その際、同学会が作成した「小学生のためのハンセン病知識」「中学、高校生のためのハンセン病知識」のリーフレット三百部を手渡

し活用を要望した。

細瀬会長は「ハンセン病への偏見をなくし、知識を

広めるために東村山市では全校にぜひ配布したい。ま

た同協議会の構成自治体にも訴えて行く」と語った。

